

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000262		
法人名	株式会社リーガル不動産		
事業所名	リーガテラス京都洛西(竹の里)		
所在地	京都府京都市西京区大枝中山町3-3		
自己評価作成日	令和2年2月9日	評価結果市町村受理日	令和2年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2694000262-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和2年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都市内でも静かな環境の洛西地域に立地しており、地域住民との距離が近く、積極的にボランティアなどに来て頂き毎月様々なレク活動を行っている。
 また、施設内に併設している、小規模多機能型居宅介護との連携も密に行っており、外出レクや、施設内のレクなどでグループホームの入居者様、小規模多機能型居宅介護の利用者様同士の関りも深い。
 日々のケアでは、散歩に出かけたい入居者様と共に散歩や買い物に出かけたり、体操や歌唱をして頂けるように、毎日1日の中で配置要件以上の職員が出勤しており、手厚い介護を行っている。
 職員の育成に関しては、実践者研修や管理者研修など法人から受講費用を出し積極的に受講を進めている。また、初任者研修や実務者研修は法人から補助金を出し、職員育成に努めている。事業所内で毎月内部研修を行っており、外部研修の開催にも注意しており、シフト調整を行い参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、それぞれが役割を持ち助け合い、支え合い、その人らしい暮らしができる場であるようにと理念に謳い、利用者のできる力を活かし日々の食事作りや後片付け、座布団作り、買い物時の自身の支払い等その人の能力を発揮できるよう取り組み、利用者の達成感ややり甲斐に繋げています。外出支援にも力を入れ、散歩や買い物以外にも初詣や観梅、桜の花見、紅葉狩り等季節毎に出かけたり、工場見学やウインドウショッピング等外出の機会を多く作っています。また、職員からの意見や提案を吸い上げ、利用者の健康状態等について話し合ったり、得られた意見を基に業務改善に取り組んだり物品の購入や修理に繋げるなど職員の意見や提案をリーダーが中心となり取りまとめサービスの向上に活かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理美容や地域の老人クラブ、ボランティアに訪問して頂き、地域との関わりを持っている。	法人理念を基に職員間で意見を出し合い事業所独自の理念を作成し、玄関に掲示したり、新任入職時のオリエンテーションで説明し職員に意識づけを行っています。職員は利用者が日常生活を安心して送れるよう助け合い支え合いながらその人らしく暮らせるよう、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はしていないが、近所のスーパーやコンビニ、ドラッグストアなどで買い物をしたり、外食をしている。	運営推進会議で地域の情報を得ており体育祭の協賛金や地域包括支援センター主催の認知症サポーター講座の補助等の協力をしています。老人クラブの音楽演奏やマジック、落語等毎月ボランティアの来訪もあり、少しずつ関わりが広がっています。事業所でのイベント時に案内をしたり、現在自治会への入会を働きかけており、今後は様々な地域行事に参加したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣を散歩し、ご近所の方に挨拶をするなど、認知症の方が生活していることを知って頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域包括支援センターの職員、認知症家族の会、自治会長、入居者のご家族、施設職員の参加により開催し、施設の取り組みや活動報告、ご意見を頂いている。	会議は自治会長や認知症家族の会会員、家族、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催し、コロナウイルスの流行により書面だけの報告となっている場合もあります。利用者や職員の状況、事故報告や対策、行事や研修の案内等を行い意見交換をしています。得られた意見から新しい歌詞カードを増やしたり、災害時の地域の避難場所について変更の連絡をもらうなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へは事故報告書及び入居時、退去時の報告書を持参している。地域包括支援センターとは、併設する小規模多機能居宅介護の運営についての相談も併せて行い、包括の実施するイベントごと(地域ケア会議、認知症サポーター養成講座など)に参加している。	事故報告や運営推進会議の議事録を届けたり、書類上の手続きや加算等の制度についてわからないことがあれば窓口に出向いたり電話等で聞いています。地域ケア会議会議に参加し行政職員と意見交換をすることもするなど関わりを持つよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に虐待防止についての研修を行っている。リーダーはユニット職員が虐待に繋がる行動をしていないか、常に気を配り、不適切な介護を行っていただければ注意している。	年2回身体拘束や虐待についての研修を行っており、参加できなかった職員は資料を閲覧し理解を深めています。年2回チェックシートを使用し振り返りを行っており、不適切な対応が見られた場合は個別やユニット毎にリーダーが注意をしています。玄関のみ施錠しており、外に出たい希望があれば職員が付き添ったり玄関で気分転換を図っています。	

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動や内部研修を行っている。また必要時に話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご入居者がおられ、ご本人、後見人、ご家族とともに情報共有し生活を支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、料金の改定時、退去時にはご家族に対し書面で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からのご意見、ご要望をお聞きしたときは、管理者へ報告し、ユニット会議で検討しご希望に添えるように努めている。	家族の要望や意見については利用者の様子については2か月に1回の通信や毎月送付する手紙や写真で報告し、面会時や電話等で聞いています。散歩をさせてほしいなど個別の要望については介護計画に繋がったり、洗濯物の間違いについては札を置き徹底した確認を行うなどサービスの向上等に反映しています。また食べたい物ややりたいことなど利用者の要望については外食や日々のレクリエーションに等に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者により、リーダーや職員により聞き取りを行い業務改善に努めている。	職員からの意見や提案は年2回の個人面談や全体会議、リーダー会議、ユニット会議等で聞いており、出席できない職員の意見については事前に聞くようにしています。利用者の健康面についての意見が多く出ており都度話し合いを持ったり、設備面での提案については修理や物品購入等に反映させています。また、研修や感染症、人権マナー等の委員会から意見が挙がることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より報告し、改善に向け努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内で勉強会を実施している。また、実践者研修、管理者研修への外部研修の受講を積極的に行っている。研修は原則勤務時間で受講できるようにシフト調整をしている。		

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し交流を図っている。今後事業所の相互訪問や意見交換を実施しスキルアップに努めていきたい。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中から、入居者の想いを聞き取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から相談があった際は、話を伺い、自分だけでは返答しかねる内容の場合、施設長に報告し、不安等が解決出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向や、困りごとについて窺い、必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り生活のとして頂けるように支援し、入居者同士のコミュニケーションを図れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの様子を伝え、家族の想いを聞き取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が面会に来られたり、夏祭りなどの行事に参加して頂くなど、関係の継続に努めている。	元同僚や近所に住んでいた知人等の面会時にはゆっくり過ごしてもらえるよう居室や地域交流室等に案内し、お茶や椅子の準備をしたり、場合によっては職員も同席し仲を取り持つこともあります。馴染みの理髪店には職員の送迎で出かけており、自宅に帰ったり墓参りや馴染みの場所での外食の際は家族と一緒に出かけしています。職員は外出がスムーズに行えるよう身支度や薬の準備等の支援をしています。	

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションへの参加を促したり、日常生活のなかでもコミュニケーションを取れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の退去後にご家族が来訪するなど、関係が切れないように努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやカンファレンスを行い職員間で共有している。	入居前に本人が暮らしている所で面談し、生活歴や趣味、好きなこと、これからどんな暮らしがしたいかを聞きアセスメントシートに記載し、病院等のサマリーやケアマネジャーからの情報も加えて、意向の把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で聞いたり、困難な場合は家族に尋ねたり、普段からその人の言葉に耳を傾け、思いの把握に努めケース記録に記載し、ケース会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取りを行い、日々のご本人との会話の中から拾っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを行い、意見交換を行っている。それに基づき計画作成を行っている。	本人や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成し、通常3ヶ月毎にカンファレンスで話し合いモニタリングを行い見直し、特に変化がない利用者の状況により6ヶ月や1年で見直しをする方もいます。必要に応じて医師や理学療法士等の意見を聞き計画に反映させています。再アセスメントは退院時や介護度の変更時等大きな変化があった場合に行っています。	見直し毎に再アセスメントを行い利用者の状況把握を行い、アセスメントを反映させた介護計画となるよう取り組まれてははいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、必要な記録を残している。情報共有としても意識している。		

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添いなど、ご本人やご家族のニーズに応じて希望にこたえるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけのスーパーや理美容の利用、ボランティアによるレクリエーションなど実施し、豊かな暮らしを実現している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回かかりつけ医に往診して頂き、健康管理や必要な薬の処方。また、他の病院とも連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを説明しており、1名の方が継続し他の利用者は事業所の協力医に変更して2週間に1度の往診を受けています。24時間連携体制があり、緊急時は2週間に1度来訪する訪問看護師から協力医に連絡し随時の往診や指示を仰いでいます。専門医への受診は家族が対応しており、行けない場合は職員が対応することもあります。またマッサージや歯科などの訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に相談している。介護職として不安な時は架電し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医医療機関を含め、地域の病院と連携を密にし、入院時、退院後の生活について情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合っている。訪問看護や訪問歯科、かかりつけ医、協力医療機関などと共有している。	入居時に重度化した場合の指針について家族に説明し、実際に重度になった時に再度事業所でできる支援を説明し病院が事業所のどちらを希望するかを聞いています。今までに看取り支援の経験もあり、医師や家族、職員で話し合い家族の頻回な面会等協力を得ながら行っています。看取り支援の研修については看護師から随時行っていますが今後は定期的に行っていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故発生時の研修や説明を行っている。マニュアルを作成し、その時に備えている。また、訪問看護ステーションによるバイタルサインについての研修を実施している。また、施設内にAEDを設置している。		

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、消防署による協力の下、消防訓練を行っている。非常災害時についてのマニュアルを作成し施設内会議の場で災害についての意見交換を実施している。次回消防訓練は夜間帯の避難を想定して行う予定である。	年2回昼夜想定で消防訓練を行っており、内1回は消防署の立ち合いの下、通報や初期消火、利用者も参加し駐車場までの避難誘導を行っています。地域の方へは運営推進会議で案内したり近隣にも声かけをしています。水や日々の食材を2日分、懐中電灯等を準備しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士、常に気を配っている。	人権マナー委員会を中心にプライバシー保護や個人情報等について研修会を行っています。職員は利用者に対し安心感を与えることや言葉をしっかり待つこと、分かりやすい返事をする等について留意し利用者に接しています。また、接客業に就いていた職員が中心となり研修を行ったり、職員の見本となり職員の気づきに繋げています。不適切な対応が見られた場合はリーダーが中心となり注意をしています。希望があれば同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの際、閉じられた質問にならないように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人一人のペースを大切にしているが、一日の流れの中で全員のペースを守ることは困難である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容等、一緒に考えるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活として、出来る範囲でお手伝いして頂いている。	食事は業者から届けられ温めて提供しごはんや汁物を事業所で作り、利用者には盛り付けや味噌汁作り、食器洗い等できることに携わってもらい職員も一緒に食べています。行事食の他にも月1回は好み焼きや焼きそば、天ぷら等利用者の好きなものやおやつも一緒に作り楽しんでいます。またうなぎや寿司など外食に出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運動や、入浴後の水分補給は特に注意している。各自の食べやすい形状にし整えるようにしている。		

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けや見守りを行っている。必要に応じ仕上げ磨きをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票の確認を行い適宜お声掛けをしている。	生活記録の中の排泄時間を確認しながら排泄パターンを把握し、表情等も観ながら個々に合わせてトイレへの声かけや誘導を行っています。座位が可能であれば二人介助でもトイレで排泄することを基本としており、職員は入居後や退院後おむつを使用していた方でもトイレで排泄できるよう支援しており、排泄用品や支援方法等についてもカンファレンスで話し合い自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、フロアの周回歩行をしている。水分摂取量に気を配り、必要に応じて下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シフトの都合で曜日とおおよその時間帯も決めている。	少なくとも週2回は入浴できるよう支援しています。一人ずつ湯を交換し柚子湯などの季節湯や好みのシャンプー、リンスなどを使用し職員との会話を楽しみながら入ってもらっています。拒否がある場合は言葉かけの工夫等で無理のなく入浴できるよう支援し、また座った状態で入浴することのできる機械浴も導入しており1名の方が使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状況に応じてお声掛けし、休息をして頂いている。寝具の清潔保持や室温等も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師に相談している。声掛けや見守り、服薬困難な場合の対応も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、得意なこと、好きなことを楽しんで頂けるように努めている。		

リーガテラス京都洛西(竹の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や花見に出かけるなど、イベント事で外出する機会を設けている。	週1回は近くへの買い物や散歩に出かけており、3日に1回出かけている利用者もいます。初詣や観梅、桜の花見、紅葉見学等季節毎の外出の他にも植物園やおたべの工場見学に行ったり、希望があれば個別でのドライブに出かけたり、スーパーでの買い物、ウインドウショッピングを楽しむなどユニット毎に月1回は外出できるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にいき、支払いの際にはご本人の手から支払いを出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を受け取った方もいるが、文字を書くことが難しくなっており手紙のやり取りはしておらず、ご希望があれば電話でお話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、ユニット内を飾りつけしている。清潔保持に努めている。	共有空間には利用者に生花を活けてもらったり、毎月利用者と一緒に季節に合わせた折り紙や貼り絵などの作品を飾り、季節を感じてもらっています。温湿度計を置き温湿度に留意し、利用者にもモップかけ等携わってもらい日々掃除や換気を行い快適に過ごせるよう配慮しています。2人や3人がけのソファを置き好きな場所で過ごせるようにし、テーブル配置は利用者の相性に合わせ変更しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と、ご自身の席が決まっており、仲良しの方と過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を持参して頂いている。季節にあった衣替えや、必要に応じて居室内の家具の配置を変えるなどしている。	居室には流し台、洗面台が設置されており、自宅から使い慣れた物を持参してもらうよう伝え筆筒やベッド、テレビ、ラジオ、テーブル、椅子、仏壇等を持ち込んだ物を本人や家族と相談しながら配置しています。人形や入居後に作成した自身の作品を飾ったり、裁縫道具や化粧道具などを傍に置きその人らしい居室となるよう配慮し、日々掃除や換気に努め快適に過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共用部は安心して生活して頂けるように見守り、お声掛けをしている。出来ること積極的にして頂いている。		